

第2回横須賀市立小中学校適正配置審議会の概要について

1 走水・馬堀地域

(1) 学校運営について

- 走水小学校において、神奈川県による教員の加配により複式学級を回避している状態であると、級外の先生の人数が少なくなっていると思いますが、その実態について教えてください。

⇒ 走水小学校については、複式学級の解消に向けて教員が加配されていますので、現在は各学年ともに単学級で維持しているところです。

- 級外については、定数的には他の学校と同じ対応になります。複式学級をしているから特に走水小学校の級外が少ないということではなく、定数でやっていますので、その点は問題ないと思います。

- 教員として授業する上で、例えば体育の場合で、学習指導要領に記載されているような動きをしっかりと教えられるのかということと、人数が少人数であるため、学習指導要領に沿った教育をどのようにしていかないといけないかを考えるのが難しくなることが考えられます。

- クラス替えをする余地がないことが子どもたちにとって本当に良いのかということも感じています。保護者も含めて人間関係が固定化されます。このまま良好な関係で行けば良いかもしれませんが、どこかで子ども同士で仲が悪くなった、あるいは保護者同士でトラブルが起きた場合でも、この状況を引っ張ったまま学年を上がらなくてはいけない辛さは、当事者でなければ分からないと思いますし、学級を分けることでお互い冷静になれるところ、人数が少なくてそれができない辛さが学校運営面でもあると思います。

- 先生の人数というのは、小さい学校では少ないです。確かに成績処理については、大人数に比べれば早く終わりますが、他の大規模校と中規模校と同様に、小規模校にも同じ出張があり、同じ教科の担当が行っているという話になっているわけです。

つまり、小規模校において、国語の担当も社会の担当も一人の先生という形にしていかないと、最終的には埋まらなくなってしまう。そうすると、例えばある曜日はここへ出張、ある曜日はどこかへ出張という状況が起こりうることを考えると、果たして子どもたちにきめ細やかな学びで力をつけさせられるのかどうかについて疑問に思いますし、学校運営などさまざまな面を考えても、それな

りの規模が大事になると思います。

- 子どもたちにとっては多くの友達がいる、たくさんの先生に教えてもらった方が良くと思いますし、おそらく、保護者の方も同じ気持ちを持っていると思います。このことを忘れないようにした上で、先ほどの通学路の安全の担保を提示し、そこで前向きに一つずつ進めていくのが一番良いと思います。

(2) 通学や通学路について

- 走水地域に関して言えば、通学路が海沿いにあることにより、天候次第で通学が困難になると思いますので、ここについても丁寧にケアしていければ良いと思いました。

(3) 跡地利用について

- 何らかの形で跡地を活用でき、子どもたちが集まれるような方法がとれるのであれば、その環境の良さは生かせるのではないかと思いますので、その点で、もう少し具体的な方向性等が示せれば良いと思います。

- ホタルの里は市内のいろいろなところにあります。私が聞いている範囲では、学校だけではなくてその地域の人々が皆でホタルの里をこれからも育てていこうというような活動になっています。例えば、学校の活動としてやっているが、小学生がパワーポイントを使って説明するときに地域の人と一緒に出て取り組んでいます。

そうした意味で言えば、学校があるからこの活動があるのではなく、地域があるから、そこに学校があって一緒に取り組んでいるのだと思います。そうであれば、学校の問題とは関係なく、この活動をこれからも生かしてもらい、まさに地域の子どもと大人も含めてコミュニケーションの場にしてもらえればと思いますし、ぜひそういう形での跡地利用を考えていただけるとありがたいです。

2 両地域共通事項

(1) 学校運営について

- 教科学習について、現在の児童数では、学習指導要領と市の施策に基づく学習活動ができなくなっていることをどのように考えていけば良いのかというところだと思います。

例えば、体育の授業でサッカーやバスケットボール等のボール運動は人数がいなければできないことですし、集団と集団、そして同じ発達段階にある同学年同士の子どもたちが体を動かしながら学んでいく授業となります。音楽における合唱と合奏もそうですが、学校と教師の努力だけではどうしても難しい点ですので、この点について、保護者の方々がどのように考えているかという部分もあると思います。

それから、今はどの学校・教科においても、さまざまな意見と考え方に触れ、そこで小グループとクラスで意見を共有し、そこから知識と技能を結びつけていくという授業を行っています。これは学び方が変わってきているということですし、小規模校においてどのように対応していくのだろうかと思います。

- 多様な人々と協働する力の育成について、どの教科においても互いに児童が啓発され、学びを広げたり深めたりする中で学習が行われていますが、これが実現できるような環境で学ぶことは非常に重要なことだと考えます。

今後の子どもたちは、今よりもさらに予測のつかないような変化の激しい社会の中で生きていくわけですので、その場合に、立場、考え方、価値観の異なる人たちとどのようにしてより良いコミュニケーションをとり、たくましく生きていくのかという点において、この辺りが課題になると思います。

- 学校運営について、小学校6年間の成長を考えますと、1学年に複数の学級があることが望ましいです。学級編成をある程度考慮できる状況にあることは、多くの子どもにとって望ましいと思いますし、実際にさまざまな人間関係の中で苦しさを感じ、実際に、単学級ではない別の学校に転校したいとの相談を何度か受けたことがあります。

また、教員の指導力の向上という点でも複数の学級があることが望ましいです。どの学級も安定した経営を行うには、学年経営がとても重要となります。複数の教員で子どもたちを多面的に見て、指導方法を検討しながら関わっていくことで、若手の教員は先輩の教員から大変多くのことを学び、学校の総体としての指導力と教育の質の向上につながっていくのではないかと考えます。

(2) 通学や通学路について

- 通学と通学路における安全の担保が重要だと思いますし、この部分がある程度見えてこない地域としては話が進まないだろうと思いました。現状でこのように対応するということを示すのは難しいのかもしれませんが、例えばバスの通学が自費になるのか、スクールバスになるのか、その辺りの具体案が出てくると、より現実味を帯びてくると思います。
- 市だけで安全性の担保をすることは難しいと思います。協議会でもご意見が出ている通り、地域全体の安全性を高められるよう、国と県に働きかけをお願いしたいと思います。
- スクールバスや通学定期の支給等通学費用の無料化の対応をした場合、既存の学校では行っていないわけですので、公平性の原則を踏まえたときに、特定の者への行政サービスということになってしまいます。それが適切なことであれば良いわけですが、一方で今後の対応として、今回の問題について対応すると、公平性の原則から、適正配置に向けた検討にある程度影響してきます。税金の使い方あるいは教育の適正化との観点でどのようにバランスを取るかを考えると非常に難しい問題ですが、地域のご意見がありますし、こうしたご意見は大事ですが、そこを踏まえた確固たる考え方を持つ必要があると思います。
- 今、通学区域を制定している中で適正配置というとり方をされていると思いますし、これまでも小・中学校、地域単位で進めてきました。
ただ、今後少子化がさらに進む中でその地域の範囲をもう少し広げたものにしていかないと、今後もこのような検討の場が多く出てくると思います。

(3) 地域について

- 連合町内会で一番課題となっているのは、住民の高齢化の問題と、次世代の子どもたちに対してどのようにして町内会の活動に関わってもらおうかということです。